

丸山稲荷社

丸山稲荷社は、鶴岡八幡宮の中で最も古い神社です。神道における稲、農耕、繁栄の神である稲荷様が祀られています。鶴岡八幡宮が開かれた 1180 年よりも前から、稲荷神はこの地で信仰されてきました。神社は、稲荷神のお使いとされる、2 体の狐の石像により護られています。参道に並ぶ鮮やかな赤い鳥居も、神社を囲う赤いのぼり旗も、商売繁盛や豊作を願って地元の氏子・崇敬者により奉納されたものです。

丸山稲荷社が建っている小山は、本殿が 1191 年に建てられた時に山腹から取ってこられた土や石でできています。丸山稲荷社の建物は、室町期（1336 年-1573 年）にまで遡り、鶴岡八幡宮の現存する建築物の中で最古のもので、国の重要文化財に指定されています。

火焚祭は毎年 11 月 8 日に丸山稲荷社で開かれます。この行事では鎌倉期（1185 年-1333 年）に端を発する、神事と音楽と舞を組み合わせた鎌倉神楽が来年の豊作を祈って奉仕されます。